

令和7年度第4回川口市廃棄物対策審議会議事録

- 1 開催日時 令和8年1月20日（火）午後2時00分から午後3時30分まで
- 2 開催場所 リサイクルプラザ4階 研修室
- 3 出席者 (1) 川口市廃棄物対策審議会委員：15人
学識経験者：河井 一広（副会長）
市議会議員：稲川 和成（会長）、幡野 茂
市 民：森田 康代、守谷 裕之、星野 恒治
川嶋 栄子、山本 一恵、遠山 玲子
戸田 良子
事業者：林 嘉和、岩崎 康彦、鈴木 守郎、小林 愛未
関係行政機関：赤松 真一

(2) 事務局：31人（※うち(株)地域計画建築研究所より2名）
須藤環境部長、平山朝日環境センター所長、金野環境総務課長
荒井自然保護対策課長、水沼環境保全課長、大津資源循環課長
中村産業廃棄物対策課長、岩田環境施設課長
中野新戸塚環境センター建設室長、沼口収集業務課長
梨子木戸塚環境センター所長、岩下リサイクルプラザ所長
塚平鳩ヶ谷衛生センター所長
朝日環境センター野邊副主幹兼庶務係長、竹村副主幹兼技術係長
環境保全課田熊課長補佐、環境施設課金子課長補佐
リサイクルプラザ山田副主幹兼庶務係長、濱田副主幹兼技術係長
危機管理課佐藤主幹兼防災係長、平井主任、繁田主事
資源循環課板橋課長補佐、坂本課長補佐、野島主査、仲田主任
小林主任、布施主事、神子主事
※長澤氏、齋藤氏（(株)地域計画建築研究所）
- 4 傍聴者 0人 傍聴申込受付期間：令和8年1月13日（火）から
令和8年1月19日（月）まで 定員6人
- 5 議題 (1) 川口市一般廃棄物処理基本計画のパブリックコメント結果等について
(2) 川口市災害廃棄物処理計画素案について
(3) 朝日環境センター施設整備基本計画および資源化施設整備基本計画の
策定について
(4) 朝日環境センターごみピット火災事故報告について
(5) その他

6 議事録

令和7年度第4回川口市廃棄物対策審議会	
1 開 会	
2 挨拶	
会長挨拶	
議事録確認者選任 守谷裕之委員が指名される。	
議題（1）川口市一般廃棄物処理基本計画のパブリックコメント結果等について	
事務局から、資料に基づき説明。	
委員	資料1-2の23ページ図表2-16について、「県」及び「国」の表記は、「埼玉県」と「全国」の意味か。
事務局	そのとおりである。
議題（2）川口市災害廃棄物処理計画素案について	
事務局から、資料に基づき説明。	
委員	資料1-2の29ページの仮置き場の設置について、臭気への対応策はあるのか。
事務局	振動・臭気等については環境モニタリングの実施、また、災害廃棄物の積置があることから熱感知により24時間管理する予定である。
委員	仮置き場については、どの程度の規模を想定しているのか。また、トイレの不足についてはどのように考えているのか。
事務局	仮置き場の想定について、川口市は空地が少ない。候補地としては、朝日環境センター、戸塚環境センター、鳩ヶ谷衛生センター、リサイクルプラザ南ストックヤードの一部、オートレース場やグリーンセンターの駐車場、荒川河川敷を予定している。現地調査の結果、約13ヘクタールの大きさになっている。
事務局	今年度及び来年度を目安に、各避難所で3,000回トイレが使用できる計画を立てている。また、避難所生活が長期化することを考慮し、事業者と災害時における物資にかかる

	協定の締結及び国や県、他自治体と物資等の支援を考えている。
委員	素案としてよくできている考える。人口の増加や多国籍化が進むことが予想されるため、その点考慮していただきたい。
委員	資料1-2の44ページの「BCP」とは何か。
事務局	災害時において優先して実施すべき事務について、各課所室にて定めている。事務の優先度や緊急性を考慮し、毎年度更新している。
委員	BCPの考え方の導入を検討するのではなく、具体的に進めていく方がよいのではないかと。
事務局	改定の際に、文言の修正等見直しを図りたい。
議題(3) 朝日環境センター施設整備基本計画および資源化施設整備基本計画の策定について	
事務局から、資料に基づき説明。	
委員	資料3-2裏面について、「PPP」とは何か。
事務局	事業方式については、建設までにどちら立場が機器の設置等の費用を負担するのか、また、その後どちらが運営を行うかなど、公民の連携を行うことである。
委員	これまでも同様の事業方式であったか。
事務局	そのとおりである。
委員	新施設建設にあたって、リチウムイオン電池の火災に対する新しい設備はあるのか。
事務局	新施設についても、高性能のカメラや発煙前に火災を発見する設備等新しいシステムを導入する予定である。
委員	プラスチック製容器包装について、どのように再利用していくのか。また、南ストックヤードではどのように処理するのか。
事務局	今後はそのまま積み替えるのか、圧縮後に搬出するか、まだ決まっていないが、今後新施設の運用方法を精査していく。
委員	汚れたプラスチック製容器包装は一般ごみとして排出し

	ており、一般ごみの焼却の手助けをしている。ただ、再利用ができず、多量のごみとされてしまうことは商品を製造する事業者の問題があると考える。
議題（４）朝日環境センターごみピット火災事故報告について	
事務局から、資料に基づき説明。	
委員	全国的にリチウムイオン電池による火災が多く発生している。環境省や消防庁等の国もリチウムイオン電池への対応策を検討している。ごみ自体は燃料であり、燃えるものであることから未然に火種をなくすことは困難である。川口市でも、分別に係るPRをしていると感じる。委員の皆さまにおいても、市民の代表として様々な機会でも周知・啓発に努めてほしい。
委員	ごみピット内で水蒸気が生じていた理由は何か。
事務局	ごみピット内にある食品が70℃から80℃になると発酵し、水蒸気となって白煙が発生している。監視室にて火災による黒煙と発酵による白煙を見分けている。
委員	朝日環境センター火災前後で、リチウムイオン電池の搬入量は増加しているのか。
事務局	朝日環境センター火災後、月2回の金属類の排出日にリチウムイオン電池を回収している。併せて、令和7年9月から3箇所、令和7年11月から埼玉県の実証試験として2箇所、合計5箇所の回収ボックスを設置している。9月から12月の4ヵ月間に回収ボックスで1,012.2キログラム、集積所で1,850.0キログラム、合計で2,862.2キログラム回収している。
委員	朝日環境センター火災前の回収量はどれくらいか。
事務局	火災前の回収量については、今お答えできる資料を持っていない。
委員	全体の回収量は増えているのか。
事務局	リチウムイオン電池の回収量自体は増加している。
委員	塵芥車でのリチウムイオン電池が原因の火災発生件数は減少しているのか。

事務局	車両火災の発生件数については、朝日環境センター火災前後を比較すると、横ばいである。
委員	メディア等でリチウムイオン電池の火災について取り上げている記事を見る機会が多い。今後もしリチウムイオン電池の危険性等について、周知・啓発に努めてほしい。
議題（５）その他	
事務局より、次回以降の廃棄物対策審議会の日程を伝達。	
委員	資料１－２の２７ページについて、厨芥類の乾ベースと湿ベースはどのように算出しているのか。
事務局	ごみピットから採取した廃棄物の組成より算出している。事業系一般廃棄物等も含んだ数値となっている。
委員	資料１－２の３１ページについて、生ごみの堆肥化を実践している人が少ないため、今後も行政と連携し周知していきたい。
会長	最後に各委員から何かあるか。
委員一同	意見なし。
会長	貴重な意見を賜り感謝する。以上で本日の議事は全て終了する。
事務局	以上で令和７年度第４回川口市廃棄物対策審議会を閉会する。
閉会 (1 5 : 3 0)	
<p>会議の内容については、以上のとおりです。</p> <p>令和 8 年 2 月 1 9 日</p> <p>川口市廃棄物対策審議会議長 稲川 和成</p> <p>川口市廃棄物対策審議会委員 守谷 裕之</p>	